麗澤会報
みずこう

麗澤会報みずこう 146 号
平成26年12月15日発行
発行所…麗澤瑞浪中学・高等学校麗澤会
〒509-6102 岐阜県瑞浪市稲津町萩原
電話 0572（66）3111
発行人……西 尾 征 司
編集人……望 月 正 人
http://www.mz.reitaku-u.ac.jp/

『不易流行』

変わりゆく麗澤瑞浪の今

平成10年に高校男子寮の部屋がユニット化（個室の部屋に）され、今年度、高校女子寮もユニット化されました。そして麗澤瑞浪の昭和の匂いが残る寮から平成の新しく美しい寮に生まれ変わり、中学・高校すべての寮にエアコンが設置されて快適な生活空間となりました。また、通学生の増加に伴い、7路線のバスが運行されるようになり、それらが出入りするバスターミナルが旧売店・別館跡に造成されました。

近年目覚ましい成果を収めている進路実績と部活動の全国大会での活躍。創立者のモラロジーの建学の精神を基礎に、知力・体力・人間性の均衡のとれた生徒たちが確実に育っています。

高校男女寮の部屋がユニット化

昭和51年度のチューター制度の導入と並行して、現在の高校男女の寮になってから40年近く…。数多くの生徒たちが麗澤瑞浪を巣立っていきました。10代後半の多感な時期に、共同生活を通して様々な人間関係の中から道徳性を身に付け、一人ひとりが正しい生き方を見つけ出す寮生活は現在も続いています。年齢的に近い生徒同士の切磋琢磨。人生の礎として、粘り強く、少々の困難にも耐えられる強い精神力と体力を養うことを目的としてきました。時には寮生活そのものがその人の人生を変えたこともあったでしょう。

自分を支え続けてきてくれた親、その他多くの大恩への自覚、生涯通じあえる素晴しい仲間と師に出会えたこと、様々な視点から物事をとらえることの大切さ、異質さへの寛容を学んだ者も多くいたと思われます。その建学の精神は現在も継承される不易の部分です。

それと共に時代に適した寮環境が求められています。絶えず進展流動する流行性の部分も必要です。

平成10年に高校男子寮の部屋のユニット化が行われ、今年度、高校女子寮も改修されました。また、中学高校すべての寮の部屋にエアコンが設置されます。

「これまでは時代に取り残された感があり、タイムスリップしたかのような生活であった。昭和の寮生活からやっと平成の寮生活に移り変わったようだ」と感慨深げに述べる生徒もいます。また、「ベッドの生活は休日ゆっくりと休める。布団も敷く必要もなく、寝るのに気兼ねしない。心と体をゆっくりと休められる。自分と向き合える時間が増えた」、「寮に帰るのが楽しみで、自分の部屋で自分の生活ができるようになった」と新しい寮での生活を満喫している様子を話してくれました。

女子寮生に聞く

ユニット化でより快適に

B1寮寮長　渡邉　ひな

寮がユニット化し、自分のプライベートな空間ができて各自でくつろげる時間が増えました。そのおかげで友達と過ごす時間との区別ができ、自習中は集中して勉強に取り組むことができています。また個室はどの部屋も広々としており、荷物の収納スペースも多いので、全体的にすっきりとしています。そのため以前よりも常に美化を意識するようになり、毎日きれいな部屋で生活することができるのがうれしいです。

新しい道のおかげで

B2寮副寮長　山田　実美

寮門の場所が変わり、女子寮生は以前よりも短い時間で登下校できるようになりました。新しい道が造られる前は坂を上り下りしながら遠回りする道しかなく毎日大変で、新しい道ができることをずっと願っていたので実現されてとてもうれしいです。

新しい道は、下水管のメンテナンス道路を利用しているためほとんど車道と面しておらず、幅も広いので、車を気にせず大人数で会話をしながら歩くことができるようになりました。登下校に余裕ができ、仲間と楽しく会話する時間が増えて本当にうれしいです。

より深まった友との時間

B3寮寮長　角田　真穂

ユニット化した今も、部屋にある畳の談話スペースでは友達同士でお菓子を囲みながら会話をすることが、以前と変わらず行われています。学校での些細な出来事からビックニュースまで、学年に関係なく懇談しています。「個人の時間」と「友達との時間」とを分けることで気持ちをリフレッシュすることができ、以前にも増して、友達との時間を大切に過ごせるようなったと感じています。これにより友達との絆がより深まり、寮生活を楽しく過ごしていけると思います。

屏風山

今年10月に皆既月食があった。きれいな円だった月がだんだん欠けていく姿には自然の偉大さを感じるのだが、月食を見るたびに一つの疑問が思い浮かぶ。「完全に地球の影に入ったはずの月がなぜ見えるのか。しかも、なぜ赤いのか」この答えは地球の大気中の塵によって赤い光だけが月に到達し、その反射光が地球に届くことによるらしい。恐らくこの疑問を持った人は多いのではないかと思うが、自分で調べ答えまで到達した人は限られるだろう▼「なぜ？」という疑問は子どもの頃は無数にあるが、年を取るにつれ減少していく。これは多くを経験して学ぶこともあるが、単に疑問をそのまま放置することに慣れてしまったからではないか▼生涯をかけて疑問を追い続けた人たちがいる。今年のノーベル物理学賞を受賞した日本人3人の学者たちが良い例だ。青色発光ダイオードは20世紀中には実現不可能だと周りから言われ、実用的ではないと言われた窒化ガリウムから見事に発明・実用化に至った。そして、今では青色LEDは我々の生活から切っても切れない物になった。3人のうちの1人である赤崎教授は「疑問に思うこともたくさんある。それとともに可能性もまだまだある、やりたいことはたくさんある」と今後の研究に意欲を見せている▼麗澤瑞浪では中学2、3年生を対象にした「プレミアム講座」が毎週放課後に開かれている。11月には名古屋大学から教授をお招きし、研究の最先端に触れることで生徒たちも目を輝かせていた。大人になっても、ちょっとした疑問を追究して心をときめかせていきたいものだ。

売店跡地がバスターミナルに

スクールバスの発着場としては、教員玄関前のロータリーが長い間使用されていました。しかし平成13年の岩村便をはじめとして、平成21年には多治見便、平成25年には中津川便、平成26年に可児便も開通するなど、通学生の増加に伴なってバス路線も拡大したため、従来のバス停では充分なスペースを確保することが困難になってしまいました。そこで生徒の安全性を考慮し、今年度より新たにバスターミナルが設置されました。

実はこのバスターミナルには売店跡地が利用されています。昭和52年の設置以来、寮生を中心に親しまれてきた本校の売店ですが、平成24年春に解体されました。その後しばらく更地となっていましたが、今回バスターミナルとして生まれかわることとなりました。

現在スクールバスは瑞浪便、岩村便、明智便、土岐便、多治見便、中津川便、可児便の合計7路線が運行中です。在校生の約4割を占める通学生の安全かつ安価な交通手段として利用されています。

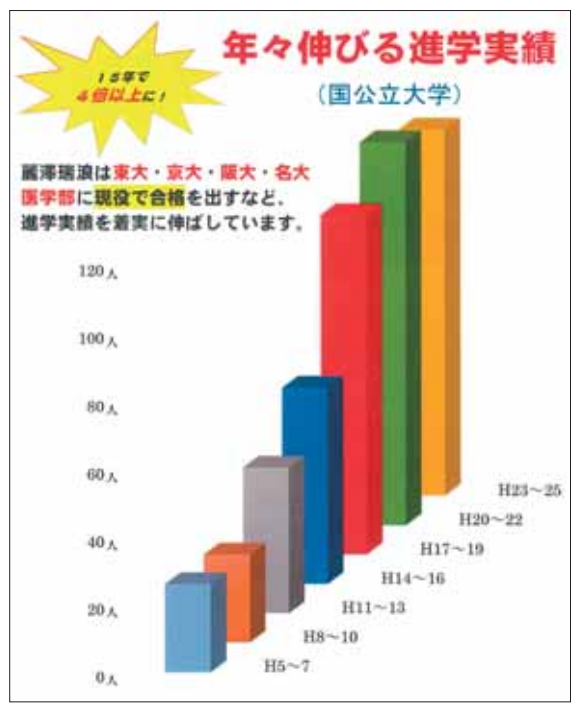
校舎トイレ改修

蟹井校長の「トイレは学校の顔である」「日本一の学校トイレを」を合言葉にトイレ改修委員を中心に改修プランを練り、昨年は5・6年フロアの男女トイレ、今年は東棟の男女トイレを改修しました。改修は生徒の学校生活に支障をきたさないよう、夏休みに進められました。改修後のトイレは、入口のドアを取り払い開放的になっていますが、間仕切り壁を使って廊下から室内への目線が直接通らないように工夫されています。設備は「全洋式便器」「ウォシュレット」「擬音装置（音姫）」「人感センサー式照明」……また、洗面台は一流ホテルを彷彿させるような擬似大理石を使用しています。臭い・汚い・怖いといった3Kトイレの姿は、ここには跡形もありません。改修後、生徒からは「明るくて綺麗で使いやすい」と大変好評です。

進学実績も好調！

平成27年度のセンター試験まであと1か月となり、生徒たちが一心不乱に学習している様子が校内のあちこちで見られます。平成26年度の入試では、東京大学、大阪大学、名古屋大学など難関校を始めとして、合計31人の国公立大学合格者を輩出しました。とりわけ名古屋大学の医学部医学科には現役で2人が合格し、本校としては3年連続で国公立大学の医学部合格を出しています。こうした生徒の目標をかなえるために、本校では教員手作りの進学講座を実施してきました。近年ではこれに加えて、家庭学習や長期休暇中における自主登校、休日の自学センター開放や、夜自習などを実施しています。

いずれも生徒が自ら進んで課題と向き合う姿勢が求められ、本校の重視する「自学」の力を高めるための取り組みです。こうした取り組みの結果、進学実績は着実に伸び、国公立大学の合格者はここ15年で4倍以上となりました。今年度もより多くの生徒が、自らの目標を達成できるよう願うばかりです。



みずこうホープさん 93

41期
桐山 和也さん

寮生活で磨かれた人間性

私は株式会社ユニバーサル園芸社という園芸会社で営業を行っています。主な仕事は観葉植物のレンタルです。街中で見かける観葉植物は大半がレンタルです。病院、ショッピングセンターなど、人が集まる場所には必ずと言っていいほど観葉植物が置かれています。それをメンテナンスや交換してお客様に喜んでもらうのが仕事です。高校時代の私からすると現在の仕事についていることは想像もしていませんでした。

在学中は友人や先生方とのご縁に恵まれ、将来は学校の先生になろうと愛知教育大学へ進学しました。一方で植物を育てるのが趣味だった私はもっと研究がしたいと思い、北海道大学の大学院へ進学し、果物の品種改良の研究をしました。そうした研究をしていく中で私の中にある植物に関わった仕事をしたいという思いが強くなりました。

（右上が桐山さん）

社会人となり一番驚いたのは、麗澤瑞浪での習慣がどれだけ質の高いものだったかということです。親への感謝、社会への貢献、他人への心遣いなどなど、普通に行なっていたことが重宝されるのです。コピー機の紙が少なくなっていたら次の人のために補充しておく、目の前のごみを拾うなど、当たり前のことですが、意外と自分中心の考えをしているとできないものです。それが自然とできていたために、一度社長に、「君はどこの大学出身だっけ？」と聞かれたことがあります。大学名を答えましたが、加えて、「今の私があるのは高校時代の寮生活や学校生活の影響が大きいです」と伝えました。

気遣いや心配りは頭で理解できていてもすぐには実行できないものです。それを当たり前のようにできるようになる環境が麗澤瑞浪にはありました。それを社会人になり改めて感じ、そんな環境で学ばせてくれた両親や先生方、友人に感謝しています。

歳を重ねるにつれ、当時は気づかなかったことが後になって実感として湧いてくることが多々あります。その時になって後悔しないためにも、今、目の前のことをコツコツと真剣に取り組むことが、将来の自分を創り上げていくのだと感じています。

台湾修学旅行

本校の研修旅行はこれまで高校入学時に新入生を対象とした谷川研修旅行のみでしたが、今年から5年生を対象とした台湾修学旅行が実施されることになりました。

台湾修学旅行の目的について蟹井校長は次のように考えておられます。

「この修学旅行を通じて、台湾が昔は明朝や清朝の統治下にあったこと、日清戦争後の50年間は日本の領土であったこと、そして現在は国際的な立場において、特に大陸の中国との間においてさまざまな問題を抱えていることなどの歴史的経緯をぜひ学んで欲しいと願っています。

台湾は日本の面積の10分の1の国土に約2400万人が暮らしていますが、昨年度は1年間に220万人、台湾人の10人に1人が日本を訪れました。

また、平成23年3月の東日本大震災では、台湾国内で集められ日本政府に送られた義援金が世界各国中最多の200億円を超え、その他に民間レベルでも多くの支援をいただきました。台湾の人たちはどうしてこんなに親日的なのか。

歴史的には、台湾が日本の統治下にあったのは約50年。現在もその建築物や面影などがいたるところに残っています。日清戦争の下関条約によって日本の領土となり、大東亜戦争終結まで、日本の台湾統治はどのように行われたのか。その歴史を学ぶことによって、私たち日本人が戦前はどのように生きたか、日本人はどんな心で、どんな精神で暮らしていたのか。台湾の人々とその歴史を通して、改めて『日本人とは何か』を発見して欲しい。それがこの修学旅行の最大の目的です」

台湾修学旅行は11月25日から28日までの3泊4日で、姉妹校提携をした及人高級中学への訪問、生徒同士の交流も行われました。

同窓会

4期生49人が日間賀島に集う

過去最高の49人が7月5日、6日に全国各地から愛知県・日間賀島に集いました。常滑焼の里を散策し、野間大坊でご住職の絵解きに歴史を学び、日間賀島に上陸しました。

宴会は幹事の森田氏（美浜）の挨拶と恩師の吉村孜先生から母校の発展ぶりのお話しをいただき、次期幹事の伊達氏（岡山）の乾杯と期別代表の土本氏（土岐）から2月に亡くなった故田中佐一郎氏の奥様のメッセージが紹介され御冥福を祈りました。歓談と近況報告で時間の過ぎるのを忘れ、翌日は名古屋駅近くの「産業技術記念館」で織機と自動車の歴史を学び、2年後に岡山での再会を約束して散会しました。（内田武良・記）

12期(定)福岡に集う

平成25年10月19日・20日福岡市東区「休暇村志賀島」に於いて2年ぶりの同窓会を横山芳明先生を招いて22人中15人、夫婦2組総勢17人が集まり開催しました。1年ほど病と闘いながら、「なんとしても治して次の同窓会に参加したい」と言っていた介田春二君が、残念なことに5月に亡くなりました。彼の御冥福を祈った後、会を始めました。お酒が進むにつれ高校時代に戻っていく、目をつむっているとその頃のまま、再び目を開くと年齢に応じた味のある顔がある。ふと横山先生を見ると、先生が一番若い、先生を追い抜いてしまった…と皆で笑って騒ぎました。

どこを向いても感謝感謝でした。（安江盛一・記）

5期(全)ミニ同窓会 北海道旭川にて開催

北海道在住の川瀬雅博君、好美さん夫婦を訪問する同窓会を7月6日計14人で旭川市の居酒屋で開き、楽しい夏の夜を過ごしました。

千歳―富良野―美瑛―旭川―小樽―札幌―白老とレンタカーにて移動する2泊3日の旅でした。なお、卒業後一度も会っていなかった札幌在住の野田守和君とは電話にて元気な声を聞きました。

今回は急な計画だったため、関西、関東からは参加できないと連絡がありましたが、次回平成28年、奈良で開催する同窓会で元気な姿で再会できることを楽しみにしています。（宮地哲雄・記）

仲間意識の強さを感じた7期(定)同窓会

10月5日恵那峡グランドホテルにて、総勢22人で懐かしい写真等を見たり学園時代の思い出などを語り合い、学生時代のまの気持ちで騒いだ楽しい同窓会を行いました。

翌日、恩師岡村先生の墓に報告と、みんなで懐かしい思い出を語り合いながら、お参りさせていただきました。台風で皆来てくれるのかなと心配でしたが、皆来てくれ、幹事としてはとてもうれしく、高校時代の仲間の意識の強さをまじまじと感じる良い同窓会でした。（小澤照男・記）

岡村先生の墓前で

13期(全)同窓生対象 穂苅先生講演会

平成25年11月9日、白狐温泉今井屋で13期同窓会を参加者26人で行いました。

恩師の穂苅満雄先生、吉村孜先生をお迎えし、昔話に花が咲き、懐かしく楽しい時間を過ごすことができました。

今回の同窓会は、本会とは別に行われています「麗澤瑞浪13期同窓生対象の穂苅先生講演会」とコラボレーションして開催しました。久々の先生の道徳の授業を懐かしくも新鮮な感覚で受講しました。多少声のトーンは優しくなったものの、当時の授業を彷彿させる先生の元気なお姿に感動でした。まだまだ先生には負けずに頑張ろうとパワーをいただきました。（宮島克裕・記）

家族も一緒に 34期(全)同窓会

34期卒業生の同窓会を7月5日瑞浪の中日本生涯学習センターで行いました。31人の卒業生が集まり、当時の思い出や近況を話しながら、すごく盛り上がった会になりました。小倉先生、谷渕先生にお越しいただき、「問題が多い学年でよく憶えている」との挨拶をいただいてしまいました。36歳になる学年なので、家族連れの参加も多く、14人の子供も一緒に参加し、賑やかに時間は過ぎていきました。次回の同窓会も楽しみにしています。（浅井敏宏・記）

38期4年に一度の同窓会を名古屋で開催

4年に一度のペースで行われている38期の同窓会は今回で4回目を迎え、10月12日に恩師の石川先生、深澤先生と卒業生33人が集まりました。

仕事でも子育てでも忙しくなる年代に入り、決して多くの人数が集まれるわけではありません。それでも集まってきたメンバーと昔の話、今の話、未来の話をして、過ごす時間は貴重で楽しいものになりました。

次回の4年後も多くの仲間と再会することを楽しみにしています。（加藤昇一・記）

10期(全)還暦記念同窓会 名古屋で開く

5月17日午後、恩師に池田先生、野々村先生、谷澤先生、高見先生、前田先生をお招きし、10期生66人の同窓会を開催しました。今回、各幹事が念入りの誘いで同窓生の半数が参加できました。名司会の川島さんによって物故者8人への黙祷に始まり、代表挨拶、恩師の祝辞、歓談と進み、あっという間に2時間半が過ぎました。松山君の企画による二次会には55人が出席し、2時間半が過ぎても42年ぶりの人もいて話が尽きない…。還暦とは思えない若さでした。みなさんに感謝！

さて、次回は2年後知多半島で磯辺夫婦が幹事を行い、6年後の東京オリンピックの年には東京で開催予定です。（中西孝徳・記）

全体で行う初めての48期同窓会

10月4日、48期全体で初めての同窓会を名古屋東急インホテルで行いました。野中先生、川嶋先生、伊藤先生、長谷先生、飯田先生に来ていただき、総勢80人近い同窓会となりました。

卒業以来久しぶりに友人と会い、お酒を酌み交わしながらの近況報告に大いに盛り上がりました。

来年から社会人になる人が多く、大人になる意気込みを語る友人を見ると懐かしいだけでなく成長している一面も見ることもできました。

ができ有意義な同窓会になりました。

次回はいつ、このような集まりができるかわかりませんが、また開催したいと思います。

（位田憲彦・記）

49期一貫生故郷瑞浪で成人式

2014年1月12日に瑞浪市で成人式が開催されました。

今回、麗澤瑞浪中学22期生の61人は、故郷である瑞浪で成人式を迎えました。また、成人式後に中日本生涯学習センターにて記念同窓会を行い、当時の担任をはじめとする多くの恩師に来ていただきました。同期の仲間のおかげで大盛況の同窓会を開催できました。

（土屋知大・記）

懐かしの恩師と共に 51期選抜クラス会開催！

8月20日に、51期の選抜クラス同窓会を、中日本生涯学習センターで行いました。3年間担任をしてくださった、長谷先生と呉羽先生も参加していただきました。遠く離れた大学へ行った人も多くいる中、クラス全体の約半数にあたる34人が参加しました。

新たな環境に囲まれた大学生活や、高校の時の思い出など、様々な話題で盛り上がりました。あっという間の会でしたが、みんな楽しく過ごすことができました。

（柳原将希・記）

卓球部OB会を 母校にて開催

9月27・28日に麗澤瑞浪にて卓球部OB・OG会を行いました。

今回は上は39期（31歳）、下は51期（19歳）まで約30人が集まり、懐かしい話に花を咲かせていました。2日目はOB・OGと現役がトーナメントで試合を行い、その中で優勝したのは4年生の木坂君でした。現役を退いても皆気持ちだけは前に出ていました（笑）。OB・OG会名簿も133人を数え、大所帯になってきました。また、来年も皆で集まれるといいと思います。今年の幹事をしてくれた50期の河村君、細川さん、ありがとうございました。

（36期　神田和・記）

秋の土佐路で 弓道部OB会を開催

平成25年10月5日全国各地より8期から16期までの34人が弓道部の恩師である土居清彦先生を訪ねて高知県に集まりました。瑞浪時代と全くお変わりなく活発な活動に50代、60代になったOB・OGたちには良い刺激になりました。

同じ目標に向かって一緒に弓を引いた先輩や後輩との思い出話やクラブが立ち上がった時の逸話など、会ったことのない方たちにも会える、縦の繋がりのOB会は新鮮に感じました。

次回は15期の山田直紀さんが幹事として計画してくれます。楽しみにしていてください。

（14期　森岡光昭・記）

伝言板

10期全日制

今年還暦を迎え、5月に名古屋で記念同窓会を参加者66人、恩師5人の71人の大所帯で開催しました。2次会も55人で！42年ぶりの人もいて、「あなた誰？」ということもありましたが、すぐにうちとけ、大盛り上がりでした。今後の予定は、平成28年D組主催で知多半島にて、6年後東京オリンピックの年に東京で！

現在、連絡の取れない方は、「坂井貞次郎さん、高崎正彦さん、藤井世志子さん、岩本和己さん、武内勝見さん、藤江邦雄さん、堀井利幸さん、羽生功さん、松本英久さん、江崎裕司さん、永井律子さん、松沢道さん、森久保文規さん、西部治雄さん」です。知っておられる方は、連絡を。

（中西孝徳・記）

おたより

主人を支えて

富松恵子（旧姓＝越智、17期）

平成23年度から25年度の3年間、主人が事務所の代表世話人をさせていただき、そのサポートを家族でしました。事務所は皆様のお力添えがあってこそ成り立っているのだと痛感し、次世代育成のため、これからも支え続け盛り上げていきたいと思います。

とても良い勉強になりました。有難うございました。

＝26年7月24日付

介護、10年10ヶ月

古澤稔（20期）

私は父の介護を母と2人で10年と10ヶ月やりました。今思ってみると長くて短いような感じです。終わってみると、私にとって、10年がいつの間にか経って年をとった気がします。大変でした。皆さんにとっても介護は人ごとでない気がします。

＝26年6月19日付

カナダへ

松田あゆみ（27期）

主人の1年間の日本駐在期間が終了し、またカナダへ戻りました。

＝26年9月5日付

引っ越しました

青木理張（34期）

近くへおいでの時、お寄りくださいね。

＝26年7月23日付

感謝しています

郷治秀行（41期）

41期卒業生、郷治秀行の母です。秀行が在学中は大変お世話になり、母として深く感謝しております。秀行は4年程前、カリフォルニア州立大学を卒業後、外資系の会社に就職いたしまして、現在は北海道札幌支社に勤務しております。

毎日営業で忙しくしておりますが上司の方々、営業先の方々に大変可愛がられ営業成績を上げております。上司、後輩とのお付き合いの関係等は、やはり瑞浪での中学・高校の6年間の寮生活で培ったことが大きく息子を成長させ、人間関係の良好さを作りあげたと思っております。

これからは同窓会にも出席できるよう努力したいと思っているようです。これからも学園のご発展を心より祈っております。

＝26年7月16日付

朗報

来たれ寮生

寮費減免制度を拡充

○入寮費・寮指導費・寮費の全額を減免
・兄弟姉妹が本校又は麗澤各校に2名以上在籍もしくは卒業している場合

○入寮費・寮指導費・寮費の2／3を減免
・兄弟姉妹が本校又は麗澤各校に1名在籍もしくは卒業している場合

○入寮費・寮指導費・寮費の1／2を減免
・保護者が本校又は麗澤各校を卒業している場合

第2回　麗澤瑞浪ゴルフコンペ

9月23日に保護者会、後援会、みずこう麗澤会、3団体合同のゴルフコンペを今年も開催致しました。今年の参加者は39人。晴天に恵まれ楽しい一日を過ごすことができました。

プレー費は、日曜日にも関わらず参加費も含めて1万円ぐらいです。

来年もまた、この時期に開催する予定です。皆様、奮ってご参加ください。お待ちしております。

（5期　今井收・記）